

市五 紡績聯合會に對し 敬言を呈するの例
 (乞ふより超也)
 奉出は敬書ある紡績聯合會に對し 活版三
 も送り此も著の五名を撰 席にせしむことより外
 ならざる 是内並に 趣草を伝可也

紡績聯合會に對する 敬言 呈す
 弟々々の團結 機構は世界の大勢の急變のまうまう
 に向ふの現状より見 るに刻不容緩の急務のまうまう
 とは違ふに能はず 是をまの字海が是は 五洲を團結
 機を承認せたいのめん 甚望して 庄としのいある物共は
 貴聯合會が弟々組念に對する 能の交を改めたい

團結の自由を承認し弟々々の情進改善せらるる機
 機を認すは時々の貴聯合會は支那に於ける弟々々
 の情進に因しては 敬言を呈するに如くせられざる義無
 かる可なりことと 敬言を呈致します

一九九九年十二月二十二日
 日本紡績聯合會 田代 岡本 給地 弟々組念
 大正十五年大會

大日本紡績聯合會
 仰中

敬言を呈す

同一産業をなす組織の弟々々の情進改善の例

川崎支那支店